

事業名

生活支援事業

「フードパントリーを窓口とした生活支援、 及び、市民との交流によるレジリエンス創出」

取組内容

ネパール人を中心とした在住外国人を対象に、フードパントリー（食料提供を中心とした支援）を窓口とした生活支援を実施した。また、日本人との交流を通じ、生活相談をしやすい人や場の創生に取り組んだ。

<事業1：フードパントリーを窓口とした生活支援>

生活に困りごとを抱える在住外国人が適切な支援につながるよう、フードパントリーを切り口に生活相談対応等の生活支援を行った。

- ・開催回数：計4回
- ・実施場所：東京DEW
- ・在住外国人利用者数：計50組
- ・連携団体：ワーカーズコープ東京中央事業本部、一般社団法人反貧困ネットワーク

<事業2：日本人との交流を通じた生活相談をしやすい人や場の創生>

日本人と在住外国人の両者が相互理解への気づきを促すことと目的とした交流会を計2回開催した。

第一回

- ・開催日時：2023年2月4日15時～16時半
- ・実施場所：地域交流カフェ サンの家
- ・講師（スピーカー）：ラマ アスマタ
- ・講師（スピーカーアシスタント）：ドゥラル サビトラ、シャキャ プラピナ
- ・参加者：9名

第二回

- ・開催日時：2023年3月18日16時～17時半
- ・実施場所：K,D,C,,, (Kimchi, Durian, Cardamom,,,)
- ・講師（スピーカー）：タマンバルバハドゥール、ガハマガルベルクマリ、ロカヤチエトリディベス
- ・参加者：10名

◆ 事業期間 令和4年6月1日～令和5年3月31日

◆ 参加人数
【生活支援】延べ50組
【交流会】延べ19名



利用者の方とおしゃべりの中で困りごとを聞き出しています

効果

本事業を通じて、支援を必要としながらも情報にアクセスができない、または相談相手がない在住外国人に適切な**情報の提供**や**相談先を紹介**することができた。

また、日本人とつながりがもてなかった在住外国人、および、在住外国人とかわりをもてなかった同じ地域に住む住民が、**交流**を通じてお互いを理解し、両者が恒常的に**コミュニケーション**をとれるようになる素地を創出することができた。

事業を振り返って 代表理事 坂口 和隆さん

在住外国人と地域の人々がともにご近所レベルでの助け合いができるような社会の仕組みづくりが必要だと再確認しました。フードパントリー・生活相談会活動における地域の商店街への協力呼びかけや地域向けにボランティア募集等といった活動への地域住民参加の促進、在住外国人と地域住民がつながりを持つきっかけを作るための拠点となるような居場所づくり、また、継続的な交流会等の実施にさらに取り組んでいきたいです。